

インフォリスクマネージ株式会社

Agent Toolkitを利用して開発したSNMPエージェント機能により、お客様に最適なITリソース運用監視サービスの提供を実現

インフォリスクマネージ株式会社（以下、インフォリスクマネージ）は、企業活動に不可欠なITリソースの可用性や情報資産の機密性を維持し、企業価値を最大化する運用監視サービスを提供するMSP（Management Service Provider）である。同社では、ITリソースの運用監視業務の受託に限らず、ISMS準拠の情報セキュリティ・マネジメントシステムやプライバシーマーク制度による個人情報保護のマネジメントシステムの構築や運用を実現するためのコンサルティングサービスなど、内部統制活動が有効に機能するよう企業を支援するサービスも提供している。

信頼性の高いITリソース運用監視サービスの提供を目指す

内部統制やコンプライアンス、リスクマネジメントなどがまだそれほど注目されていなかった2004年半ばに、MSP事業（リモート運用監視サービス）を展開していた株式会社ネットエンズ（以下、ネットエンズ）とアイティマネージ株式会社（以下、アイティマネージ）は、業界最大手を目指して合併し、アイティマネージ株式会社となった（2005年11月にインフォリスクマネージ株式会社へ社名変更）。

多くのMSP事業者が撤退を余儀なくされた厳しい環境で、インフォリスクマネージは、蓄積したノウハウを活用して独立系の運用監視サービスプロバイダ最大手へと成長し、さらなる事業の拡大と信頼性の高いITリソース運用監視サービスの提供を目指すようになった。

合併前のネットエンズは、お客様のIT運用監視業務を支援する高品質サービスを提供する企業であった。リモートでITリソースの運用監視を実施する『リモートサーバーメンテナンス』は、企業のITリソースの安定稼働を支援する、同社の主力サービスであった。お客様のサーバを監視し、障害を防止し、万一の場合には専任技術者が迅速かつ的確に対応し、システムダウンを最小限に食い止めるサービスである。この事業分野には多くの競合が参入したため、顧客の囲い込みやサービス拡大のために差別化を図る必要があった。同社は、当時、OSにバンドルされたフリーのSNMPエージェントを利用して監視サービスを提供しており、次のような問題を抱えていた。

- OS (Windows, Solaris, Net BSDなど) ごとに監視情報が相違
- 取得できる監視情報の種類がITリソースごとに相違
- エージェントソフトの安定性

これらを改善するため、SNMP エージェントに関して次の項目を検討した。

- ① 新規開発
- ② net-snmp (フリー) を利用した開発
- ③ 市場で販売されている製品の利用

検討の結果、上記①②は、開発コストを考慮して不採用とした。③についても、いくつかのベンダー製品を比較検討したが、この時点ではコストと品質がマッチする製品がなかった。

監視エージェントの開発が短期間で実現できることを確認

その後しばらくして、Web 検索でSNMPエージェントの開発キット製品であるWebNMS Agent Toolkit（以下、Agent Toolkit）を見つけた。機能、操作性、品質、開発コストなどさまざまな角度から評価を実施した。ゾーホージャパン株式会社（以下、ゾーホージャパン）の製品は、無償でダウンロードして評価することができ、評価期間中でも技術サポートが提供されるため、評価作業も順調に進んだ。初期に購入する開発キットの価格も、開発したSNMPエージェントのランタイムライセンス等のランニングコストも他社製品より安価であった。また、実績のある製品で品質も安定しており、コストと品質に関する要件をすべてクリアしていた。『リモートサーバーメンテナンス』で必要となるアプリケーション・サーバの監視エージェントの開発も短期間で実現できることが確認できたので、採用することが決定された。

ゾーホージャパンのAgent Toolkit C Editionは、C/C++言語のSNMPエージェント開発ツールである。操作性に優れたGUIと多彩なAPIを備え、ネットワーク管理機能やエージェントの開発において、大幅な開発工数の削減が可能である。Agent ToolkitにはJava Editionもあり、JavaベースのSNMPエージェントの開発もできる。高いコストパフォーマンス、マルチプラットフォームでの安定性により、世界で広く利用されている。



インフォリスクマネージ株式会社
取締役 CTO 河本剛志 氏

導入企業紹介

インフォリスクマネージ株式会社

所在地：東京都港区芝1-11-11 住友不動産芝ビル3F
設立：1997年1月9日
資本金：409,494千円（2009年9月現在）
URL：http://www.inforisk.co.jp/

両社の合併に伴う運用監視サービス統合の検討

一方、合併前のアイティマネージも、多数の優秀な運用監視のエンジニアを擁し、同社が長年にわたり蓄積してきた運用監視の技術スキルやノウハウ、経験に基づくSMS（システムマネジメントサービス）という名称の優れたサービスがあり、リモートからのITリソースの運用監視サービスを多くのユーザ企業に提供していた。このSMSでは、アイティマネージが自前で構築した運用監視ツールや監視システムが使用されていた。

新生インフォリスクマネージでは、合併後に複数の運用監視サービス、そのサービスを提供するための複数の監視システムや監視ツールが存在することは、事業戦略やマーケティングの観点からのみならず、業務負荷、メンテナンス、リソース、コストなどの点から生産的ではないと判断し、ITリソース運用監視サービスのあり方について検討するプロジェクトを立ち上げた。このため、インフォリスクマネージの代表取締役副社長兼 COO 兼 CTOである河本剛志氏は、次世代サービス推進室長として、両社の運用監視技術エキスパートを集め、合併後の新しい運用監視サービスの方向性についての検討を開始した。河本氏の役割は、合併前の両社がそれぞれ別個に提供していたITリソースの運用監視サービスを一本化することであった。「当時は、合併前の両社とも独立系のMSP事業者であり、同じようなIT運用監視サービスを提供していた。それぞれ優れたサービスで

あり、その基盤となる監視ツールや監視システムのどちらを残すべきか、あるいはまったく新たにゼロから再構築すべきか、随分悩みました」と同氏は述懐する。河本氏は、技術エキスパートをとりまとめ、両社のノウハウやスキル、システム環境、サービス、そして両社の顧客への配慮などのバランスをとりつつ検討を進めていった。検討を重ねた結果、インフォリスクマネージが特許を所有する監視システムを採用し、客先のサーバ監視用のSNMPエージェントにはゾーホージャパンのAgent Toolkitおよびそれを利用して開発したエージェントを引き続き使っていくことに決めた。

技術エキスパートでもある河本氏を中心として慎重に検討を重ねた結果、Agent Toolkitが、コストと品質という二つの条件をクリアし、合併後の運用監視サービスの統合に必要な要件にマッチする唯一の製品になるという確信をもつに到った。さらに、既存の監視システムなどのリソースを統合するという目的を達成するのに最適なツールであることも明らかになった。

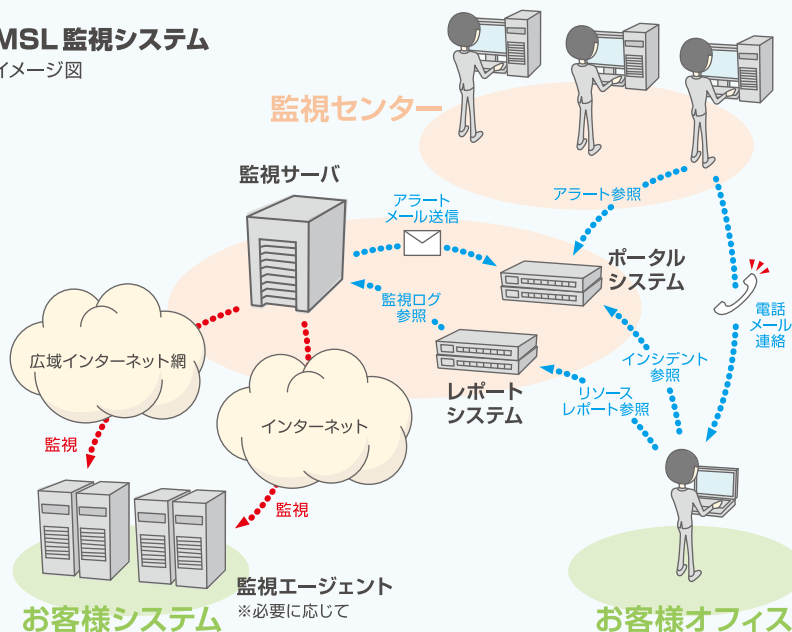
マルチプラットフォームに対応し、監視機能の拡張が容易であり、さらに大幅な開発コストの削減を実現できると判断した。開発キットの費用も開発したSNMPエージェントのランタイムライセンス等のランニングコストも妥当で、決定は容易であった。

両社の合併に伴う運用監視サービス統合の検討

河本氏は、Agent Toolkitを採用したことで、ネットワークシステムのコアの開発技術に携わることの楽しさに加え、SNMPプロトコルによる通信の重要性を再認識したと語る。また、Agent Toolkitを利用することで、SNMPが収集するMIB情報に見られる微妙な違いなどを克服できたなどの、開発する側にとってのテクニカルな面での利点も挙げている。だが、エージェント開発ツールを用いて開発した監視システムの保守やメンテナンスなどを考えると、少し不安があったと河本氏は漏らしている。そのような時、ゾーホージャパンから紹介された、技術力があって信頼できる開発ベンダーと協力することで、監視システムの開発・構築も計画の範囲内で実現できたという。「開発ベンダーがとてもよく対応してくれました。開発ベンダーと共同で作業を実施できたというこ

MSL 監視システム

イメージ図



とは、プロジェクトを推進する上で大変重要でした。当社が培ってきた運用監視ノウハウ、良い開発キット、優れた開発ベンダーの三位一体がなければ、このITリソース運用監視サービスは、実現していなかったかもしれません」。

開発ベンダーとの共同作業によって構築したインフォリスクマネージのMSL (Management Service Library) 監視システム (図参照) では、お客様のITリソースをきめ細かく監視できるようになっている。

また、監視メニューが増加するなど大幅な性能向上も実現できた。特に、既存のお客様からの要望に応える機能追加が容易になり、サービスメニューを大幅に拡充できるようになった。河本氏は、システムの変更にあたっては、技術者としてだけでなく、サービス提供者として、お客様視点というものを大切に、新しいサービスがどう変わり、どのような優位性を持っているのかを説明することも決して疎かにしなかった。合併によって独立系で業界最大手となったとはいえ、お客様への提案では、同業他社と競い合う場面もある。だが、同社の監視サービスが「技術的な競争力という点ではだれにも負けない」と、Agent Toolkitで開発したエージェント機能に加え、同社が蓄積してきた運用ノウハウが正当に評価されるはずであるという強い自信もぞかせる。

顧客の要件に応じてカスタマイズ可能な監視サービスの必要性

インフォリスクマネージは現在、国内有数のMSPとして、数多くのお客様に対してIT運用監視サービスを提供している。同社の運用監視・システム改善サービスとなるMSLで確立した監視サービスの内容は、同社の実績とノウハウによってさらに充実したものになっている。河本氏は、今後のMSPのサービス形態に二極化が生じる可能性があるかと予測する。内部統制やITサービス管理 (ITIL) など、企業活動を支えるIT基盤の運用監視に対して、厳しい要求がされる中、監視サービスへのニーズも高くなっていくという。そうした場合、ITリソースの増加と複雑化したITインフラを適切に運用監視していくためには、MSLのようなカスタマイズ可能な監視サービスが必要になる。一方で、もっと簡易なサービス形態が出てくる可能性もあるという。その背景には、厳重に守らなくてはならないIT資産が増えていくということと、今後は守る必要のないものが加わってくる可能性があるということである。たとえば、多種多様なシステムが監視対象として含まれるようになる。そのような状況では、監視機能のカスタマイズを可能とするAgent Toolkitのような開発ツールの役割はますます必要になってくると考えている。

製品詳細はホームページで http://www.webnms.jp/products/WebNMS_Agent_Toolkit_C/

●この製品カタログの記載内容は、2009年12月現在のものです。記載されている製品に関する情報やホームページの内容は事前の予告なしに変更する場合があります。
●本文中に記載の会社名、ロゴ、製品名の固有名詞は各社の商号、商標または登録商標です。

ゾーホージャパン株式会社

〒221-0056
神奈川県横浜市神奈川区金港町6-3 横浜金港町ビル6階

☎ 045-444-3881 (営業部)

✉ jp-sales@zohocorp.com

🌐 <http://www.zoho.co.jp/>



●製品のご購入は、以下代理店/SIパートナー/リセラーへ